

2. 事業の概要と成果

(1) プロジェクト 目標の達成度

【上位目標】災害対応における官民パートナーシップの促進および緊急対応の能力強化を通じた持続的なプラットフォーム基盤の構築

【プロジェクト目標】スリランカ国内で、マルチアクターによる災害対応時のネットワーク機能が強化され、大規模な災害対応も可能な持続的な基盤が整備される。

【達成度】

1. マルチアクターとの連携が深まり、官民連携による国内の災害対応が可能になる：
プラットフォームの基盤構築を進める中、本年度事業では官民のマルチアクターとのミーティング（延べ125回、延べ参加者1645人）を重ねることで、相互の理解がより深まり、中央・地方の政府機関、企業とのパートナーシップが拡大した。またマルチアクターを繋ぐ“ハブ”役としてのA-PADの信頼度や認知度が一層高まった。
2. 捜索救助対応能力が向上し、官民連携の救助活動能力が向上する：
民軍連携の捜索救助訓練（水難救助訓練）で、民軍の50名が水難救助訓練（Level 1）を修了。特に水害の多いスリランカ国において、A-PAD SLが主催する訓練を通し、より高度の知識と技能をもつ人材を輩出した。これにより国内の捜索救助能力が向上し、同時に救助活動において官民の連携を促進する効果も十分期待できる。
3. 緊急対応能力が向上する：
コロンボや地方のコミュニティや企業に対しDRR関係のワークショップを開催し（延べ16回、延べ参加者742人）防災に対する意識向上に貢献した。企業に対するBCPの紹介は多くの意識の変化をもたらし、また学校の教師を対象としたワークショップの内容が、教師によって多くの子供や住民に指導されるという広がりも見られ、防災や災害時の自助に対する意識や行動の向上に貢献した。

(2) 事業内容

（ア）官民パートナーシップ強化

<中央レベルのプラットフォームミーティングの開催>

中央レベル	会合（回）		参加者（人）	
	目標	達成	目標	達成
定例会合	4	10	120	337
セクター別会合	6	10	60	159
臨時会合	20	92	100	340
合計	30	112	280	836

<州レベルのプラットフォームミーティングの開催>

州レベル	会合（回）		参加者（人）	
	目標	達成	目標	達成
北部州	3	4	45	484
東部州	3	3	45	147
南部州	3	3	45	65
ウバ州	3	3	45	113
合計	12	13	180	809

<広報活動>

- A-PAD SL ウェブサイト www.apad.lk： 事業期間のアクセスは1500。

- メディアへの掲載：TV（24回）、国内の新聞（7回）、
- FB、Twitter：約1000名のフォロワー
- e-Library：約850個の出版物が掲載され、学術的な専門家を含め活用されている。
- ニュースレター：隔月発行で6回発行。紙媒体で1800部（300部×6回）、データで4500部（750部×6回）
- パンフレット、ポスター：防災に関するものを政府機関、パートナー団体、ワークショップ等を通して配布。
 - ・ DRR in Floods - Saving your possessions（2500部）
 - ・ SME Resilience in Flooding（2500部）
 - ・ Flood Risk Reduction Poster（1000部）
 - ・ A-PAD Flood Guide（タミール語）（1000部）
 - ・ A-PAD Flood Guide（シンハラ語）（1000部）

（イ）緊急対応の能力強化（民間・軍・政府の連携調査の基盤整備）

＜捜索救助に関する能力強化＞

官民連携の水難救助訓練（Level 1）を軍関係者（25名）と企業などからの参加者（25名）に対し実施した。

活動	訓練		参加者	
	目標（回）	達成（回）	目標（人）	達成（人）
水難救助訓練	2	2	40	50

＜緊急対応に関する能力効果＞

事業継続計画、ファーストエイド、減災、平時の防災準備等に関して、合計16回のワークショップや訓練を実施した。

プラットフォーム	訓練		参加者	
	目標	達成	目標	達成
コロンボ	4	4	120	130

プラットフォーム	訓練		参加者	
	目標	達成	目標	達成
北部州	2	5	40	197
東部州	2	3	40	242
南部州	2	2	40	50
ウバ州	2	2	40	123
合計	8	12	160	612

（ウ）海外組織とのネットワーク構築活動

＜国際シンポジウムの開催＞

2019年4月10日にコロンボ市内で開催。在スリランカ日本大使、スリランカ海軍司令官などの要人や政府機関や行政、国内外の人道支援団体、企業のトップなどを含む204名の参加者（目標は150-180人）であった。

＜海外でのネットワーク協議等への参加＞

A-PAD スリランカは国際的な会合に13回（目標は2回）出席。

A-PAD フィリピンで開催された国際シンポジウムにはA-PAD スリランカのパー

	トナー団体より2名が参加した。海外のネットワークより得られた知見を上 述の隔月発行のニューズレターや会合で共有した。
(3) 達成された成 果	(ア) 官民パートナーシップの強化 ● コロンボで、定期会合およびセクター別、臨時プラットフォーム会合 112 回（目標：年 30 回以上）実施。参加組織はのべ 300 団体（目標：250 団体）で、前年度より 20%以上参加団体が増えた。内訳は、民間セクター（175）、政府機関（50）、NGO（25）メディア（15）、通信・ネットワーク（10）、外国公館（10）、海外（10）、学術関係（5）であった。（目標：120 業種）。 ● 地方 4 州で、プラットフォーム会合を北部州 4 回、東部州・南部州・ウバ州各 3 回（目標：各州 3 回以上）が実施され、参加組織はのべ 130 機関・団体（目標：60 団体）で、その内訳は民間セクター（72）、政府機関（33）、NGO（15）、メディア（10）あった。前年度より 20%以上参加団体が増えた。 ● プラットフォーム会合のアジェンダや議事録が A-PAD スリランカ事務局により毎回メールで 1,645 人に情報共有された。 ● 定例会合、セクター会合、臨時会合を通じて、マルチセクターによる災害対応（準備、予防、緊急対応）の実践が、政策提言を含めて 20 例を超えた。 ※参照：別紙 1 「IO Wave 2018」最終レポート ● 災害発生時に、官民連携で 6 回（目標：3 例）の災害対応を実施した。 ※参照：別紙 2 官民連携の緊急対応事例 ● 災害活動の支援でパートナーを組んだのは（Partners in Disaster Response）10 団体である。 ※参照：別紙 3：災害活動の支援パートナー団体 ● 防災に関してパートナーを組んだのは（Partners in early preparedness）5 団体である。 ※参照：別紙 4 防災に関するパートナー団体 ● A-PAD スリランカのウェブサイトにある E-library http://apad.lk/index.php/library/ には 800 個の文献が効果的に維持管理され、防災分野の資料が蓄積、活用されている ● A-PAD スリランカのウェブサイトはほぼ毎週（目標：毎月）更新された。 ● A-PAD スリランカの活動が 2 ヶ月に 1 回発行のニューズレターで紹介され（計 6 刊）、国際的なネットワーク上で情報を共有した。 ● A-PAD スリランカの活動は、7 回の新聞記事や 24 回のテレビで紹介された。 ● 災害対応促進のイベントで防災省や防災センターなどと提携し、8,000 部（目標 1,000 部）のパンフレットを印刷・配布した。内容は、政府機関やコミュニティ、企業からの要望が高かった一般市民向けの洪水や地滑りの注意喚起、中小企業向けのガイドや従業員向けの防災の心構えなど。 (イ) 緊急対応の能力強化（民間・軍・政府の連携調整の基盤整備） 捜索救助訓練の参加者 50 名から得たフィードバックは下記の通り。 ● 研修終了時の参加者に理解度テスト及び実技テストを実施し、全員が合格ラインで修了した。（目標は 60%以上の参加者が 75 点以上をとる。） *研修は期待に応えることができたかという質問に対して、100%（目標 60%以上）の参加者が 4 以上（目標：4 以上）を選ぶ（研修の全体評価）。 *研修を通して新しい知識や技術を得られたかという質問に対して、69.92%（目標は 60%以上）が 4（目標：4 以上）を選んだ（内容の評価）。 *研修は、実際の仕事や生活に関連する興味のあるものだったかという質問に対して 100%（目標は 60%以上）が 4 以上（目標：4 以上）を選んだ（妥当性を評価）。 *研修で学んだことを実際に行動に移したいかという質問に対して 100%（目標は 60%以上）が 4 以上（目標：4 以上）を選んだ（実践性の評価）。

	*訓練の内容と構成は適正であったかという質問に対して、97.28%が5、3.2%が4を選んだ。 *訓練の教材やプリント、会場環境、ロジ調整は適正であったかという問いに対し、57.88%が5、7.88%が4、7.88%が3を選んだ。 ● 災害発生時の官民連携による活動については、50名の民軍のLevel 1訓練修了者がグループの緊急コミュニケーションラインによって緊急時に連絡がとれる体制となっている。2019年の南西モンスーン発生時には10名の修了者がボランティアでチームを結成しスタンバイ体制を取った。A-PAD スリランカ事務所に保管・管理している資機材も国際レベルのトレーナーの指導のもとで、すぐ持ち出せるような管理・整備体制となっている。 ● 該当分野の政府政策ペーパーへの貢献については、6例（目標は3例以上）、本事業による活動を経た内容が反映された。 参照：別紙5 政策ペーパー (ウ) 海外組織とのネットワーク構築活動 ● 国際シンポジウムに、スリランカ4州、海外5カ国から参加した104の団体（目標：150団体）からのべ204人が参加（目標は150）であった。団体の内訳は、民間セクターから55、政府機関から15、人道支援16団体、A-PAD 各国プラットフォーム4、外交機関3、メディア3、国際機関7、学術機関1。 ● 防災に関するA-PAD スリランカの活動記事が新聞に年7回（目標は5回以上）掲載された。 ● A-PAD スリランカの活動がテレビで年29回（目標は2回以上）放映された。 ● 他、活動紹介はユーチューブで35個掲載。 ● A-PAD スリランカの活動が国際会議や学会等で年13回（目標は2回以上）報告された。 ● 国際ネットワーク間の相互支援による、防災・災害対応の効果を上げた事例は、A-PAD の各国プラットフォーム間の相互支援や、他支援団体との相互支援を含め多数例（目標：1例以上）ある。 他参照：別紙6 ニュースレター、記事 別紙7 A-PAD スリランカに対するコメント
(4) 持続発展性	災害対応において、民間セクターとの協働を長年模索していたスリランカ政府は、A-PAD スリランカがその連携役を果たす能力を十分保持していることを認知しており、その期待は益々高まっている。また“防災・減災”に対する関心をもつ企業や団体、コミュニティは増えており、BCP（事業継続計画）を含め、民間セクターからの各種ワークショップの要望が寄せられ、様々な形の災害支援活動への関心も増えてきている。A-PAD スリランカは官民との幅広いネットワークを生かし、このような要望に応えつつ、民間セクターの声を政府の国家行動指針などに反映させていく。また地元のテレビ局やラジオ局などのメディアとも協力しながら、引き続き情報の発信やパートナーシップにも尽力していく。 水害や地滑りの多いスリランカ国においては災害対応時に重要な役割を担う軍関係機関を含む救助員の技能向上と人材育成は課題であり、本事業で実施した国際基準の資格を有する専門家による水難救助合同訓練に対するスリランカの期待は大きく、今後も継続する。購入した資機材については、A-PAD スリランカの事務所に厳重に管理されており、専門家の指導に沿った保管体制をとっている。 また、N 連スリランカ事業は A-PAD が目指すマルチセクターによる災害支援ナショナルプラットフォームを構築するための事業であり、また構築後も組織の持続的な活動を支えるため外務省資金を活用して、引き続き特徴を活かしたモデ

	ル事業を実施し、災害時に機能できる組織を維持していく。本年度は緊急対応や研修等の活動のためのクラウドファンディングを試みたり、現地の金融機関のファンド（SUPPORT THE VICTIMS OF THE EASTER SUNDAY ATTACK IN SRI LANKA）の獲得にも成功した。財政面でも引き続き多方面へのアプローチを実施していく。
--	---